

第5回沼津市リノベーションまちづくり戦略会議 議事録

日時 : 平成28年11月29日(火) 18:10~20:50

場所 : 市場町12-24(耕文社工場ビル)

登壇委員: 嶋田委員、江口委員、長澤委員、今井(俊)委員、山田委員、岩崎委員、
今井(風)委員、小松委員、大木委員、杉浦委員、植松委員(市職員)

テーマ : 沼津の新しい暮らし方

1. 本戦略会議の趣旨説明(ぬまづの宝推進課 植松係長)

2. 登壇委員紹介

3. 本日の会議の趣旨説明(ぬまづの宝推進課 植松係長)

市は、リノベーションまちづくりの推進事業を沼津市総合計画や地方創生まち・ひと・しごと総合戦略の中に位置づけ、今後は行動指針として、戦略を策定する予定。それに向け、これまで4回会議を開催してきた。沼津には素晴らしい環境資源があり、これを享受することで市民が幸せになるという意見が多くあり、d a i t a i G R a P H i Cの大木さんに沼津暮らしのイメージを絵にしてもらった。本日はどんな暮らし方、ライフスタイルを送ってみたいかについて具体的に発言いただければと思う。

4. テーマレクチャー・フリーディスカッション(嶋田委員)

これまでの4回の議論をもとに、戦略の骨格を市の方で作ってみたが、まだまだ表現が硬くこなれていないので、自分が今までの意見をまとめてみたものをお示しする。今日は皆さんから、これはやってみたいなど、主体的な発言をいただき、構想につなげていきたい。

リノベーションまちづくりとは、今あるものを活かして活用していく、民間主導でプロジェクトを興し行政が支援する、遊休不動産を活用して経済合理性の高いプロジェクトを興し、補助金には頼らない、これによって都市・経営課題を解決するというものである。

役所が作ったものが降ってくるのではなく、皆が主役であるので、皆で作っていくもの。沼津は資源が豊富であるから、中心部だけでなく周辺での変化の兆し、IUターン、食なども含めて考えることが重要である。都市は人類最大の発明であるが、あるもので考える、無いものはないので今あるリソースを使い倒そう。周辺の豊富な資源をまちなかで表現する。沼津のまちなかで住んだり働いたり遊んだりする中で足りないものは?どんな人たちが住み、働き、遊ぶまちにしたいか?半径200mのスマールエリアで考え連鎖的にプロジェクトを興していく。

不動産オーナーの皆さん、現代版の家守になりませんか？家守を目指す方は現代版家守になりませんか？起業を目指す皆さん、沼津の中心で起業しませんか？学生の皆さん、リノベーションまちづくりに参加して卒業後も沼津のまちで暮らしてみませんか？行政の皆さん、公共は最大の不動産オーナーです

これからのまちづくりの主役は不動産オーナーです。ビジネスオーナーの皆さん、パブリックマインドをもって家守会社をやってみませんか？いま戦略を作っているの、それに則った事業をやってはどうでしょうか？

ここから先は、私がこれまでの会議の中での意見から作成したもので、沼津市リノベーションまちづくり戦略方法案 10 個を示すので、皆で議論をしてもらいたい。

(1) まちなかエリアの不動産を活用し働く場をつくる

北九州小倉のメルカート 3 番街、小路、目白通りの軒先マルシェなどを紹介。

小松委員 震災復興のときに上土商店街に若い人がいないとの意見あった。そこで若い人が働いていることをPRしていったら商店街に人が集まってきた。働く場を作るというのは象徴的にもよいと思う。

嶋田委員 働いているエリアでは、人が通行するし、お昼も食べる。どういう場所でやったらいいかの意見はあるか。

小松委員 オフィスで働く人もお店で働く人も、まちなかの面白い場所を知らずにいる。

嶋田委員 見えることが大事か。

小松委員 今まで見えなかったことを見せることで広がっていく。

男性 富山から来ました。最近フリーランスになったが、いま富山にしながら設計の仕事をしている。沼津でも仕事をして送ったりするが、Wi-Fi が飛んでいないので、まずは沼津にWi-Fi を飛ばしてほしい。自由に使えるものがあれば人が集まると思う。

嶋田委員 通信環境が整っているのは大事。それさえあればどこでも仕事ができる。池袋で働いているが、公園に飛んでいけばいいのと思う。

男性 都内に新幹線通勤をしているが、母が 74 歳になる。趣味で手作り小物をたくさん作っていて、売ってくれと言われて販売を始めたところ、思いがけずたくさん売れる。8 千円や 1 万 6 千円で売れる。自宅に友達も集まり、現在、長泉の農家を改修して手数料をとって販売しているが、沼津でもできると思う。多世代が交わりあったものがあればよいと思う。

嶋田委員 北九州のポポラートでは手作り小物をやる人を集めた。家賃は一月で 8 千円程度。手作りは付加価値が高い。なぜ入ったかという繋がりを持つてということを入居した。

今井（俊）委員 うちの店は間口が結構あり 8 間ある。全部を貸すのではなく、自分も商売をやりながら一部を貸すことを考えている。家電店をやっているのだが、いま

展示をやるのは大きな量販店だけで、まちなかの家電店には困りごとで訪れる人が多い。そこから始まって結局テレビが売れたということがあるので、話ができる人がいればよい。1階であれば、小さいスペースでよいし、返ってやりやすいのではと思っている。

嶋田委員 一緒に作っていきしょう。片付けを手伝ってくれる人とワークショップをやるのはよい。

(2) 公共空間・公共不動産を活用するための使いやすい仕組みをつくる

嶋田委員 北九州では、道路を屋台にしたことで価値が高まったし、前回の菊地さんのプレゼンでのコペンハーゲンのまちの通りでの事例もあった。一方、沼津では地区センターの厨房が一般に広く開放されているとは言えないとの意見があった。

沼津は屋外が気持ち良い空間であり、首都圏等では結婚式、ウェディングをまちなか空間でやっている者がいるが、リノベーションスクール物件の一つの建物も、そういった提案だったと思う。イタリアのローマでファーマーズマーケットをやっているまちがあり、クオリティが高い。この日だけすごく人が来る。定期的なマルシェをやっても面白い。

小松委員 上土で歩道に机を置いたが、テレビに出てしまい、届け出を急いで警察に出した。警察には、行政と一緒に連れて行ってグレーに。苦労したこともあったが、池袋での事例を見せたら納得してくれた。県の方もまだまだ規制が固い。

嶋田委員 ローマのマルシェは、利用者が車でやってきて道路上で店を開ける。道路でなくても会社の持っている駐車場でもよい。目白通りの事例では、歩道が狭いが、民地側に隙間があるため民地であれば警察は文句を言わない。

今井（風）委員 東京からこちらに来た。休みの時に軒先でリヤカーを引き販売していたが、警察に止まるなど言われた。止まらず引き続けた結果、知り合いのカフェの軒先を提供してもらえるようになった経験がある。うまく合うと相乗効果生まれる。別件で西浦保育所の跡地あるが、市の職員に見せてもらったところ、昭和50何年の建築でまだしっかりとした建物。2階にはプールもあり、そこで何かできないか。施設を使うとお金がかかってしまうので、まずは園庭からと思っているが、一緒にやってくれる人がいれば。内浦の漁協は直営市をやっているので、西浦でもやってみたい。

嶋田委員 車で来られるのがポイント。即席の商店街ができてしまう。園庭を使うのはよいと思う。

長澤委員 この前のスクールでは結婚式場の提案あったが、面白かったのは、このエリア一体の提案であったこと。例えば、役所で婚姻届にハンコを押して、コミュニティ道路で祝福されて、役所の職員が並んで式を挙げるなど、地域の特色を生かしてやるのは面白いと思った。上土の稲荷市はすごい人が集まるのだから、その川

向こうに人を流したい。

嶋田委員 沼津の人はどこで結婚式をあげるか？沼津か、三島か、清水町？安くでも 200～300 万円かかるので市外にキャッシュアウトしている。地域の食材を使ったものを食べる、地域でお金が回るようになる。沼津の人は、1 回は市外に出ている人が多い。その人達が市内で結婚式をやれば、外貨を稼げるし仕事にもなる。

男性 アーケードは、昔は人が多かった。せっかく屋根があるならば、軽トラックでマルシェができる。

嶋田委員 今井さんはやらなくても認めてくれればよい。新仲見世の歩道を利用する手続きなどは誰かがやってくれる。

今井（俊）委員 この前の日曜日にパンマルシェがあった。初回は 3 千人が来て、2 回目、3 回目と 5 千人となって、パン屋は良かったが、新仲見世のお店は？賑わうのはよいが商店街も潤いたい。

嶋田委員 マルシェをやると商店街の売り上げもあがる。

小松委員 上土のイベントの際に、あえて出店しないで店に引き込もうとしたことがあるが、結果、売り上げが 7 割になってしまった。良い野菜などを揃えるなど強みを出せないと難しい。商店街に出店するマインドを持たないと、他のところに行ってしまう。

嶋田委員 イベントの際は、通りで出店する人は飲み物だけで、食べ物は店舗からといった、ゴールを持ってやること。

男性 門池公園が近くにありマルシェをやりたい。桜もきれいで富士山も見える。妹 2 人も芸術系の学校に行っており、やりたいと言っている。

（3）千本、内浦の空き家群を活用して新しいツーリズムの産業を作る

嶋田委員 バケーションはどうか。別荘は一時しか使わないので遊休物件を貸し出す。葉山ではハイシーズンでは 1 週間で 20 万円のところもある。沼津も御用邸があり、空き家があれば短期滞在のための宿やウィークリー住居などはどうか。何もしないために来る人もいる。沼津は震災以降、津波の影響があり、どこの沿岸部も地価が下落しているが、葉山は下落していない。御用邸のあるところには津波は来ないと勝手にだか思っている。根拠はないが、国がチェックしているだろう。沼津がこれを利用しないのはもったいない。近くで美味しい食材が買えるので自分で作ることもできる。

岩崎委員 全面的に同意だが、出身の内浦では、いい感じの平屋の空き家がいっぱいある。専業農家の中学時代の同級生がつい最近実家に帰ってきて、たまたま話をしていたら、うちに空き家があるとの話しになり見せてもらった。本人は新しい家に住んでおり、旧家を見たところすごく良かった。歩いて 10 秒で海であり、富士山も見える。友達を使ってよいと言ってくれており、別荘やオーベルジュなどの妄想

が膨らむ。

嶋田委員 葉山の事例では、実は旅館業法に対してグレーなのでは？ということで突っ込みを受けている。横須賀では米軍があるからOKとの話も。このように行政側の解釈次第でないかと思っており、市民がハッピーになるような方向で考えてほしい。そうすれば、海辺の不動産が生き返り、外貨も稼げる。

(4) 市内と周辺の農産産品をまちなかで消費できる仕組みと、農家とレストランをつなぐ新たな飲食業態を生み出す

嶋田委員 都電テーブルをやっており、全国の野菜、肉、魚を扱っている。沼津には REFS という誇れる八百屋があるが、地域で採れたものを地域で消費しようという考え方が大切。農協を通じて運ぶ食材は、5 日程経ってしまう。地元の食材は、翌日に並ぶだけで美味しいし、健康によく質のよいものだ。沼津に行ったら野菜が美味しいという状況を作ったらよい。

山田委員 最近、リノベで刺激を受けて、市内で何かやりたい人を集まれと呼びかけたら結構な方々が集まった。飲食系をやりたい人が多く、自分の所有物件の 1 階にキッチンがあるので、どうせ改装をすうなら使いやすいキッチンを作ろうと言ったら派生し、沼津独自のハンバーガーを作ろうということになった。誰か愛鷹牛に繋がっている人がいたら教えてほしい、

杉浦委員 リノベに参加して刺激を受けて、産前産後の女性のケアハウスを作りたい。離乳食を地元のもので出来たらよいと思っている。

嶋田委員 めちゃくちゃよいアイデア。丸亀のリノベーションスクールのプレゼンを見てほしい。瀬戸内産前産後院の提案で、産後院のシステムが韓国にあるという。丸亀でやろうとしたものは、産後 1 か月くらいフォローするというものだが、二拠点居住のよいきっかけになるのではないかと。瀬戸内海にはそういう文化が元々あった。漁業のまちで男性が漁に出かけている間、女性が酷使されてきていたので、産んだ後くらい休まないで長生きしないという背景によるもの。産前産後ケアは昔からのテーマなので、沼津も東京との距離ならいける。

小松委員 大手の飲食店から言われるが、料理人は注文が多く難しい。沼津の独自性というメリットが弱いので、沼津野菜を売り出してはと言っている。例えば魚を飼料にした野菜などを考えている。

嶋田委員 都電テーブルの大塚店では、仕入れ素材が美味しいので、そのまま切って出してくれとっている。鮮度がよいものはそのまま美味しい。

小松委員 鮮度が大事で、距離が近いと生産者の想いを直に伝えられる。オーナーが生産者の裏にある物語をダイレクトに伝えることができる。

嶋田委員 沼津野菜はブランド化できると思う。

(5) まちなかと周辺の遊休不動産を活用して、リノベーションによる新しい居住環境とコミュニティをつくる

嶋田委員 沼津は首都圏から車で1時間と交通の便がよいので、リビルディングセンターなどの可能性がある。建材屋さんは東京から普通に買いに来るのではないかと。

女性 第2回の戦略会議で、大阪から来た主婦として発言した者です。今までの話を聞き、場所を提供してくださる人がいれば物件を見て、前向きにやることを決めていきたいが、仲間は外から来た者は見つけにくい。一緒にやろうという人の出会いをどうすればよいか。

男性 先程、母が74歳と言ったが、祖母が10年前に他界した際に、車1台分くらいの遺産があった。母は家庭菜園の代わりとなる畑を買おうと、葦山の上にある別荘地を1区画買った。昭和40年くらいの建物でリノベをやった。今日はこの会議のために休んで参加しているが、リビルディングはよいと思う。今日の会場の建物もよい。

嶋田委員 捨てればゴミだが、中古建材の市場性はある。

山田委員 好きが向じて古美術商の資格を取った。資材や建材があれば安く売ってくればありがたい。

嶋田委員 D I Yを是非やっていただきたいものだ。

女性 今日、初めてリビルディングセンターというものを知ったが、栃木とか長野にあるのか？近いところがあれば、欲しい暮らしは自分で作るができるし、美味しいものも自分で作りたいが、現実的には、機動力がなくて妄想に終わってしまうので、一步の踏み出し方を教えてほしい。

小松委員 上土商店街にはいろんな人がいる。隣の店はD I Yをやったが、その者がカジュアルフレンチの出店を手伝って、カフェも近くにできる。やっている人のコミュニティに入れば進むのではないかと。今、レフズ(自分の店)で求人をしている。

嶋田委員 週に2日くらいまちで仕事をしてみてはどうか。

(6) 新たなファイナンススキームをつくる

嶋田委員 北九州市と豊島区で家守会社をやっている中では、資金調達が難しいことが課題である。融資を受ける際には、担保物件がない。家守は自分で事業をやるわけでもないからだ。金融機関は事業性を見たいのだが、貸すのはナショナルチェーンではなく、主婦や起業家などだ。最近でも、北九州市では旦那衆が出資してくれ、優先株主となってきている。豊島区では金利分を補助している。

毎回カネを出す旦那衆はいないのなら、地元の人と金融機関でファンドを作って融資制度を作ってはどうか。また、クラウドファンディングを使う人も多く100~200万円程度なら現実的だ。制度融資とクラウドファンディングのパッケージにしたものがあれば、事業者は市の補助金に頼らなくてよい。

岩崎委員 共感する。事業を始める時にクラウドファンディングやったが130万円集めた。

お金を集めるだけでなく、ファンを集めてしまう。クラウドファンディングの出資者は、投資を先にしてくれるだけでなく、リピーターになってくれる。やるべきだと思う。リピーターを集められるのは、その後、金融機関に対しても保障になると思う。コールドプレスジュースはなぜ高い値段で？ということでも借り入れに苦労したが、クラウドファンディングで証明できたと思う。

(7) 規制緩和策 まちやどの業態の宿アグリツーリズムの宿

嶋田委員 先日、イタリアに行って、山岳地帯に山の上に建った過疎に悩まされている集落の取り組みを見てきた。空き家だらけになったが、一つ一つの空き家を繋いで町全体をホテルにし、飲食店はあるので、そこをレセプションとした。アルベルゴディフーズと呼ばれるもので、ドイツや北欧の集客につながった、新しいツーリズムである。谷中にHAGISOがあり、1階がカフェ、近くに離れがあり、谷中全体を宿にしている。オリーブ畑をやっている人のところは、お客はキャンピングカーでやってきて泊まる。アグリツーリズムで、オリーブ農園に泊まって楽しめる。車でやってきて泊まれるというもの。

今井（風）委員 友人が伊豆に移ってきて狩猟免許を取ってやっております、たくさん獲れるが食べ方に困っているという。宿泊業をやりたいと思っているが、ジビエ的なものを調理できる人がいれば、サイクルも盛んになっており、集客も期待できる。イノシシは食べやすい食材で、狩猟に参加したい人は獣を狩るという体験もできる。

嶋田委員 畑をやって鹿を倒す。面白い。

岩崎委員 完全に内浦、西浦のモードですね。アルベルゴディフーズはここでも出来ると思う。ミカン畑もあり収穫体験もできる。畑にテントを張って泊まったことあるが星空がきれい。流行りのグランピングも取り入れられるかもしれない。

嶋田委員 まちなかでジビエが食べられるのはよい。

杉浦委員 大阪で生まれ香港で育った都会っ子、自然にあこがれるので、子供に体験させてあげたいと思う。小冊子を作っていた際、収穫体験の特集を載せようとしたところ、農家の方に最初から最後まで体験が必要と言われた。

嶋田委員 馬場未織さんという方は、東京に住んで南房総で二拠点居住をしている。空間的資源へのアプローチはあると思う。

女性 2回目と今回参加している。戸田へ取材に行ったが、ミカンを作っている人のところは鳥獣被害にあっている。鹿の話があったが、今のところは獲るだけで料理にはできず、焼却処分しかないという。戸田も同じであるので、天城のように加工処理施設があればよい。また、戸田のタカアシガニの甲羅を粉碎したものもある。

嶋田委員 猟師を束ねてジビエをやったらどうか。

男性 狩猟免許を持っているが、建築の設計の仕事をやっていると忙しくていけない。本当は若い猟師を育成することがよいが、自分で獲るだけでもと思っている。鹿肉は普通に焼くと固くなってしまいが、自分で食べるのはOK。

今井（風）委員 ジビエの流通は、保健所の許可が必要で、精肉屋を通さないとダメ。

大木委員 夫が観光農園をやっていて、冬はいちご、夏はマンゴーを育てているが、1本木のオーナーを集めていて、採れたものは売る。ミカンの木でオーナー制はできないか。

嶋田委員 是非、やりたいですね。

（8）海の活用 クルージング

女性 前の戦略会議の時に海辺や河辺で育ってきて、沼津には海の家がなぜないのか、と提案した主婦で、自分でやればと言われてその気になってきている。仲間がほしい。

嶋田委員 だれか仲間になってくれる人は？ところで、沼津の川や海で船を浮かべての商売はできないか。

女性 リバーサイドの前も例のようになればと思う。鴨川の歩きやすさは川底が浅いからで沼津は深いから難しい？

嶋田委員 水面をうまく使えないか。

男性 沼津は海に面しているところ多いが、いろんな権利がある。行政と調整しないとダメで、クリアできれば船を浮かべられる。個人だけでは難しいので、行政の方のサポートをいただくとよい。

嶋田委員 道路の活用と似ている。海は誰のものなのか。皆のものなのに。

男性 権利だろう。父が江浦で養殖業をやっていて倒産したが、生け簀があった。輸入ものや九州のブランド化で事業が傾いたのだが、皆潰れて利害関係がなくなってしまったのでは。

嶋田委員 これに触る勇気のある公務員はいないか。

男性 市に質問したいが、私は少し前にカヌー大会やっており、音楽もやっていた。このような利用には、何がOKだったか分かれば教えてほしい。

小松委員 狩野川活用協議会があり、商店街や行政も入っているが、例えばロットンに相談に行けばできることになっている。残念ながら、常時カフェをやっていたリバーサイドは、人が来ないから止めてしまった。しかし、リバーサイドの取り組みはパイオニアであり、表彰もされている。やりたいと思う人は、行政でもロットンにでも相談をしてほしい。

嶋田委員 海活用協議会があればよい。

(9) 農産物の二次加工品

嶋田委員 農産物では、味は変わらないが流通にさせられない規格外が出るので、それを活用できないか。

岩崎委員 どんなものでも規格外は2~3割は出る。

小松委員 調理設備を持つ福祉施設は作ることが目的ではないので、設備があってもそのような食材を生かしきれていない。

嶋田委員 久遠チョコレート吉野さんは、障害者にチョコレートを作らせているが、ドライフルーツも使っている。

女性 酒屋をやっている。厚木出身で沼津に来て2年くらいだが、酒蔵が店にくると酒粕がいっぱい出る。静岡の酒蔵は20数件あるが破棄していると聞いており、美味しいのにもったいない。甘酒などになる。

岩崎委員 東京では甘酒が流行っている。コールドプレスジュースとの掛け合わせもある。

嶋田委員 和歌山では地元のお酒を飲む店を作った。

長澤委員 伊豆の名産といえばわさびであるが、すり下ろすところが辛く流通するが、静岡県民は捨てる茎をわさび漬けとして食べている。

(10) その他

男性 今日のはたまたま参加した。沼津出身で今は東京で働いている。スルガ銀行の岡野頭取からサッカーがJ3に上がったことを聞き、パラリンピック出場者も2人いて沼津はスポーツ資源があると思うと思う。自分はエンジニアリングで、パラリンピックの選手の義足を作っている。オリンピック・パラリンピックの組織が立ち上がっていて、川崎市や江東区は2020年東京オリンピックに乗じて盛り上げ便乗して稼ぎたいとしているが、沼津ではいるか感じない。燦々ぬまづ大使でもあり、沼津で何か考えている方があればうれしい。

嶋田委員 川崎でリノベをやろうという話になって、スポーツ義足の話があがっていた。スポーツはやった方がよい。高齢者が歩くまちは健康で義務的経費が低い。義足の産業は福祉と結びつく。議論してもらえればと思う。まちなかでスポーツをできる場所はあるか？サッカーをできる場所のニーズはあるはず。北九州市は100億かけてスタジアムを造ったが、J3降格でコンテンツがなくなった。練習場から造った方がよい。再開発ビルを造ったのと同じ。スポーツは大賛成で、市民が身近にスポーツに触れ合えるのがよい。

植松委員 同じことを行政も考えており、市民体育館を市役所前に移設する計画がある。まちなかでスポーツを楽しむ場として、就業後にスポーツを楽しめる場としてディテールが重要である。

杉浦委員 24歳まで陸上をやっていて、日本で10本の指に入るくらいであったし、夫はもっと凄かった。今は子育てに追われているが、本当はスポーツを何とかしたい。

一緒にスポーツでまちづくりと産前産後を重ねられればと思う。一緒にやってくれる方いればと思う。

嶋田委員 紫波町のオガールがスポーツを通じたまちづくりをやっている。雪捨て場を開発しているが、サッカーの練習場を最初に造った。フットボール専用のもので人工芝だが、バイエルンの練習場を同じものであり、学生がよく使いにくる。Jリーグは年間16試合しかないのに年間数億円かかるが、オガールは年間数十万人の人が来て交流人口が増えている。

大きな駐車場をお持ちの方は練習場を造ったらどうか。岡崎さんがいうのは、プレイヤー目線か観客目線かということ。観客目線で造ってしまうので箱ができる。岡崎さんはバレーボール専用の体育館を造ったが、床材にこだわり、東北中からプロも練習に来る。ホテルも一緒にあり稼働率が高い。プロがやる環境で子供たちもできる。沼津でスポーツはよいかもしれない。

長澤委員 スポーツプレイヤーもよいが、スポーツツーリズムも全国では盛んで、レッズが試合をすると2万人くらい人が増える。まちに経済効果があり、J3であっても他のまちから人が来る。いかにお金を落としてもらうか。イギリスなどはスポーツバーがあり、そこでお金をおとして騒ぐ。沼津にはあまりないのでビジネスチャンスではないか。

嶋田委員 沼津はバー文化があるので、それをスポーツに重ね合わせる。ツーリズムも別荘もスポーツも、オガールは新築だが、バドミントン専用の体育館を探したら古い倉庫をリノベしたものだ。明かりがない方がよく、床だけを良いものにしてできる。

男性 障害者とスポーツの視点から、大学の時に車いすバスケをやっていたが、スポーツをやるためにお金がかかる。スポーツ用の義足もすごいお金がかかる。車いすバスケも床に傷がつくので断られたりした。体育館に行けば障害者用の車いすがあって体を動かせるなどあるとよい。狩野川も整備されて、自分では手に入らないかもしれないものがあるが、市民体育館などの公的体育館で出来ればと思う。

小松委員 体育館が出来るといことで、狩野川、香貫山などと全体的なパークスになればと思う。昔、クライミングジムをやろうと思ったことがあったが、ハブ的なパークスになればと思う。

嶋田委員 行政はメジャーな野球場を造ろうとするが、オガールのバレーボール施設のように需要は少なくとも、尖っていれば皆ここに来る。障害者ができるアリーナはあるか？沼津でやれば、もしかしたらオガールと同じようになるかもしれない。スポーツを目指すことは、子供や年寄りに優しいまちとアピールできるかもしれない。

男性 スポーツという意味では、新しい箱を造るので解になるのか。48歳で学生時代

に同級生は 600～800 人いたが、いまは 60 人。母校二中の子供は千本小の施設に入れても入る人数で、二中の校舎はいらぬ状態だ。校庭は使わないので草だらけである。

時代が変わって新しい笑顔が生まれるよう、先程の地産地消のような広い視点でオール沼津での考え方が大切だ。役所で施設の使い方を考えてもらえればと思う。

嶋田委員 民間が考えてビジネスとして成り立たせるようにしましょう。例えば、障害者と市民のための視点で、他にはないまちづくりを。交通の便がよいところであるからこそ、こういうアイデアが出てくる。

小松委員 スタッフ研修で各地の酒蔵や漁師のところに行ったが、沼津市からはたいがい 1 日で行ける。沼津のまちは疲弊しており、行政が頑張っても市民が頑張らないと変わらない。ここにいる人は意識が高い人だと思うので、沼津野菜の取り組みは例であるが、全体としてリノベを核として進められればと思う。

嶋田委員 リノベーションスクールでダンスの提案があったが、あれもスポーツの一種と考える。

江口委員 今日はよい会議であった。生き生きする会議であった。今日、皆がやりたいことがたくさんあって、特に内浦、西浦ブラザーズは良かった。この会議は今年で終わるのか？大きい会議、小さい会議があってよいと思うので公開でやって欲しい。

いろんな業種の方との連携が大切。私も大学の中でも仲間ができにくいので、外に出て民間で仲間を求めているが、今日、嶋田さんの話でよかったのは、まちなかで表現するという。10 個の方向性がある、仲間と矢印を太くしていくことだと思う。パラリンピックの話もよかったので、開くまちなかで表現することをやってほしい。

嶋田委員 まとめになるが、この会議は皆が興味を持てるような面白い提案から議論をスタートしたものなので、これから本気で皆で同じ方向に向かっていくことが大事である。バラバラであるとダメ。同じ方向を向けばすごい力になると思う。全国でやっているバラバラだと一つの力になりにくい。ゴールを定めて、皆が自由にやっていく。沼津がスクールを始めたばかりなのでぼんやりとしているという印象だったが、今日は良かった。

男性 最後の一つ聞きたい。都市交通の話が出なかったと思うので、提案書を作ってきたが、どこに出せばよいか。今後どこに提案すればよいか。

事務局 市役所ぬまづの宝推進課へ。一緒に話をしていければと思う。

嶋田委員 こういう会議を緩く続けていった方がよい。行動していく人たちの会議を。

5. その他

- ・次回の戦略会議は1月24日の予定。場所は未定。

- ・熱海リノスクの開催告知（江口委員）

第4回目で、これまで事業計画コース6件のうち4件が実現。3回目はセルフをやっている。参加してほしいができれば最終プレゼンだけでも参加を。会場は普段は入れないロマンス座を予定。

- ・12月17日 公共空間アイデアコンペの開催告知。

- ・沼津市の第2回目リノスクを3月24～26日に開催予定。